

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 調査報告概要表

作成日 2008年12月26日

【評価実施概要】

事業所番号	〃0175400365
法人名	特定非営利活動法人 ありがとう
事業所名	グループホーム ありがとう
所在地	紋別郡遠軽町西町2丁目1-218 (電話) 0158-42-8716

評価機関名	(有) NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成20年12月17日

【情報提供票より】(20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 2 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 5 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	8.7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造従来工法造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	13,000~18,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低 68 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	遠軽厚生病院 ・ 遠軽学田病院 ・ みずしま内科 ・ アサヒ歯科
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームありがとうは、遠軽町中心部より南西側太陽の丘えんがる公園の麓に位置し、ホーム東側からは、願望岩が眺められます。建物は洋風の平屋建て1ユニット、駐車場が広く多目的に利用ができ、玄関にはスロープが設置されています。居間の大きな窓からは陽が入り、明るい開放感のあるホームとなっています。ホームの理念である「家庭的であたたかな雰囲気・生き生き生活・心のリハビリ」を心掛けて、職員は利用者や家族が安心して暮らせるよう積極的に取組んでいます。夜勤帯は2名制をとっており職員は元より利用者、家族の安心感に繋がっています。現在隣接して新築中の1ユニットは年度内開設の予定となっています。開設して3年目に入り、地域の理解と交流を深め開かれたホームを目指しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価による課題については、理念の共有と終末期の方針共有等、管理者と職員が会議の中で話し合い、前向きに取り組んでいる姿勢が見られます。増築ユニットに合わせ家族会の発足も検討しています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価への取り組みは、職員と共に話し合い利用者・家族の意見・要望を謙虚に検討し所長が取りまとめ作成されています。利用者への対応の取り組みを含め地域の人々に理解される良いホーム創りを目指しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の理解や支援を得る取り組みとしての運営推進会議は町社会福祉課及び包括支援センター担当者・民生委員・近隣住民・家族代表・運営者・管理者で構成されており、平成20年10月に第一回が開催され今後、定期的開催を予定しています。議事録には報告並びに意見要望を記載し出席者に配付していますが、家族全てには配付されておりません。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置していますが利用はなく、管理者・職員は家族の面会時に利用者の様子を伝えたり家族の意見要望を言って貰える体制を整えています。2~3ヶ月毎にホームだより「ありがとう通信」を発行し、郵送や手渡しをしています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入していませんが、町内の祭には利用者と一緒に参加したり、避難訓練・消火訓練では近隣住民も参加しており、災害時にはいち早く駆けつけてもらえる関係ができています。近所の人達の訪問や差入れもあり地域に馴染んだホームとなっています。

(有) NAVIRE

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で利用者を支え、その人らしく安心して暮らしていく事を目指し『家庭的なあたたかな雰囲気 生き生き生活 心のリハビリ』の独自の理念を掲げ取り組んでいます。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関、事務室、廊下に掲示し、職員は常に意識しながら実践に努めています。3ヶ月毎に開催される全体会議や毎日の申し送り時には理念の確認共有がされています。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には加入していませんが、地域の行事に参加し、近隣住民も気軽にホームを訪問する等日常的に交流がされています。ホームの避難訓練に近隣住民も参加し、協力を得ています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員の日々のケアの様子や話し合いの中から所長が纏め作成しています。自己評価及び外部評価は玄関に置かれ閲覧出来る様になっています。	○	職員各自が日々のケアを振り返りサービス向上に繋げて行く手段の一つとして自己評価を活用し、又、外部評価に付いても職員で共有しサービス向上に活かすことを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	早い段階から準備を進めていましたが、諸事情により、本年10月第一回が、利用者家族、行政担当者、地域包括センター、民生委員、近隣住民等に声を掛け開催されました。ホームの状況報告、意見交換が行われ、今後、定期的開催に向け取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者とは連絡を密に取り、相談や情報収集を行いサービス向上に活かすように努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月毎のホーム便りの発行に合わせ、金銭管理や状況報告が行われています。家族の訪問時には、ケア記録を見てもらい報告するように心掛けています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、家族が意見、要望を言い易い環境を整えています。家族の訪問時には、何でも言って貰える関係作りに努め家族と共に利用者支援に取り組んでいます。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設時より職員の離職が少ない状況にあります。新規職員採用時には、それぞれの勤務帯を経験し、早期に顔馴染みの関係を築く様に配慮し利用者のダメージを防ぐ工夫をしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	質の向上を目指し、積極的に研修会参加を心掛けています。月に一度開催される遠紋地区の研修会にほとんどの職員が交替で参加し情報の共有がされています。緊急性の高い内容時には、都度内部研修を行いサービスに反映する様努めています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム開設時に実習を兼ね他ホームを訪問し情報交換し合う関係を築いています。又、遠紋地区の研修会を通し交流を図っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学をして貰い、管理者が自宅を訪問し、話し合いを重ねる中で、希望や状況の把握をし、安心して利用が出来る様に配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と共に過ごすことを喜びとし、家事や文化等教えて貰うことを大切にしながら支え合う関係を築いています。回想療法の観点から昔話の支援を積極的に取り入れています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの個性や生活暦を考慮し、利用者や家族と接する中で、思いや意向の把握に努めています。困難な場合は表情や様子から思いを汲み取り希望に沿うよう支援しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意向を踏まえ、職員の意見、生活記録を反映しながら、本人本位の介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護記録、カンファレンスを基に、利用者、家族、職員間で話し合い、定期的に見直しを行っています。又、状況の変化に応じ随時見直しを行い、現況に即した計画の作成に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助、理容支援、写真の焼き増し等、利用者、家族の立場に立った支援を提供しています。ショートステイの受け入れ体制も整えています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医と連携し支援しています。受診結果は、職員間で共有し、家族への報告も行われています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応については、地域的な問題も考慮し、現在行わない方向で共有されていますが、現状を踏まえ、家族と話し合いながら柔軟な支援を心掛けています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者、職員は利用者の尊厳を大切に言葉掛けや対応に留意し、個人記録も利用者の眼の付かない所で記入する等の配慮をしています。保管に於いても、気配りがされています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりの趣味やペースに合わせて希望に沿った支援をしています。利用者のほとんどが日中リビングで過ごしており、テレビ、ラジオ、CD鑑賞、ピアノを楽しむ等その人らしく、穏やかな暮らしが伺えます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付け等、利用者の希望や状況に合わせて共に取り組んでいます。献立は季節感を取り入れ、利用者の状況に合わせてミキサー食、きざみ食の提供もされています。食材は買い置きせず常に新鮮な食材を使用する様に心掛けています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日お湯を入れ、最低週2回は入浴出来るように支援しています。時には、利用者の希望で利用者同士で入浴を楽しむ事もあります。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の力を活かし生き甲斐が持てるような支援に努めています。季節毎に外出する事も多く出先で外食を楽しむ事もあります。職員が新聞の読み聞かせを行い、社会との繋がりを保つ様に工夫しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望や状況に合わせて、日常的に散歩や買い物に出掛けています。夏季には玄関先でお茶を楽しみ気晴らしや、外気浴の支援に努めています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	設立時より、日中は鍵をかけないケアを実践しています。玄関にセンサーを設置し、利用者の安全確保と来訪者の確認に繋がっています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の立会いで避難訓練、消火訓練を実施しています。訓練時には近隣住民も参加し協力体制の構築がされています。	○	何時起こるか分からない災害には日頃の訓練が大切と考えます。今年度はまだ避難訓練が実施されておらず、早期に開催される事を望みます。又、夜間帯を想定した訓練の実施も検討されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分量、食事量は記録され、職員間で共有しています。不足がちな利用者には声かけ等で確保につとめています。以前献立の栄養バランスを栄養士に見て貰っていた経緯があり、それを参考にバランスの取れた食事を提供しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広々としたリビングには季節の飾りつけがされ季節感を感じる事が出来ます。日中は全館換気がされて気持ちの良い空間になっています。廊下に手洗いを設置し利用者の利便性に配慮がされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の馴染みの家具や小物が置かれ、その人らしく安心して利用が出来る様に支援しています。		